

大学の運動部活動と地域社会に関する研究

スポーツ教室に着目して

香川 純 (広島大学)

1. 目的

本研究では、日本における大学運動部と地域社会の関係性を社会学の観点から明らかにしていく。とりわけ大学運動部による地域貢献活動の一つである「スポーツ教室」に着目し、学生が運動部による地域貢献活動に対して、どのような意識で、どういった活動を行っているのか明らかにする。そして、これを以って将来的な大学運動部の価値向上や、大学運動部による地域活性化を実現する一つの材料となればと考える。

2. 研究方法

まず、文献調査にて日本における地域社会とスポーツの変遷、日本における大学運動部の変遷、諸外国の大学運動部の実態に関する調査を行った。またインタビュー調査にてスポーツ教室活動を行っている運動部学生に以下の項目について調査を行った。

- 1) 対象者：地方国立大学運動部であるK大学とH大学運動部のスポーツ教室の活動を行う5部活動の部員各1名
- 2) 調査方法：文献調査、半構造化インタビュー

3. 結果と考察

文献調査の結果、日本の地域社会においてスポーツは時代背景の影響を受けながら発展してきたことが明らかとなった。その中で、大学運動部は、「スポーツ資源」と呼ばれるものを多く有しているにもかかわらず、その可能性を生かし切れていない現状が浮き彫りとなった。

またインタビュー調査の結果、スポーツ教室を行う運動部は一定数存在するが、内容や活動に対する意識はさまざまであった。継続して精力的な活動を行っている運動部は、活動を通じて地域住

民と深い関係を築き、応援される存在となっていることが分かった。また今回の調査では、活動を行うことで部にとっても知名度や価値が上がる、部員同士の相互理解につながるといったメリットを多く感じているということが明らかとなった。このような学生の意識が広まり、学生が主体的に活動を行っていけば、大学運動部と地域社会双方の発展につながるであろう。

4. 結論

本研究では大学運動部が地域社会において重要な役割を担う活動の第一歩として学生による地域住民へのスポーツ教室について調査してきた。大学スポーツ資源の有効活用し、地域社会や経済の活性化を実現するといった目標をスポーツ庁が掲げ、UNIVASや各大学の運動部を統括する組織が設立されている。しかし大学スポーツの主役は学生であり、学生の協力なくしてこれらを実現することは不可能であると筆者は考える。今回の調査で明らかになったような地域貢献活動の意義を運動部に所属する多くの学生が理解し、前向きに活動を進めていくことが重要である。また大学や企業、総合型地域スポーツクラブやプロスポーツチームとも連携をとりながら、お互いの良さを生かし、足りない部分を補えるような活動を行うことができれば、スポーツを通じた地域活性化により近づくだろう。またそうした活動が大学スポーツの価値向上の実現にもつながっていくと考える。

5. 主な参考文献

- 1) 西機真流通経済大学における大学スポーツの振興に関する一考察. 流通経済大学スポーツ健康科学部紀要 11: 41-54 (2018)
他